

<上級気功療法士・安田公介の奇跡>

應水流気功との出会い（本人談）

①原因不明の疾患

薬や機械を使わずに医者が治せない病気や怪我を治す…よく耳にする言葉だが本当にそんな事が出来たらこれを奇跡と呼ばずに何を奇跡と呼ぶのであろうか!?

いや…それよりも生まれて60年間普通人…と言うよりも凡人として生きてきた私がそんな奇跡の力を短期間でしかも苦しい努力をもせずに手に入れた事こそが奇跡なのではないだろうか!?

私は、元々気功などというものを信じていなかった！

それは、よく気功治療の時に「信じなければ効かないよ！」という言葉を目にしたからだ。

信じなければ効かないならば気功などというものが存在するのではなく、医学や脳科学でいうプラセボ効果という現象なのではないか…と考えていた！

そんな私が気功と出合うきっかけは偶然だった！

私は、丁度還暦を迎える年に左の足を負傷した。

いや、負傷という言葉はふさわしくないかも知れない。何故ならば打った訳でもひねった訳でもなく左足の甲に力が入らなくなってしまったのである。当然歩くのにも階段を昇るのにも大きな支障をきたした。上がっていると感じているつま先が全く上がっていないのだからところ構わずにけつまづきそうになって危険なのだ。

私はまず一番近い大病院で検査を受けてCTを撮った。医者はそれを診ながら首をかしげて「たぶんこれは腰から来ていますね。治すならば手術しかありませんね」と言った。手術など生涯一度も受けた事が無かった私は身体にメスを入れる事に大きな恐怖心があったが手術しか方法が無いと言われたら覚悟を決めるしかなかった。

しかし覚悟を決めて手術を承諾する私に医師は困惑の表情で「やりますか…？でも、手術しても必ず治るとい保証はありませんのでご了承下さい」と告げた。

覚悟を決めて言葉を発した私は医師の言葉に呆気に取られた！

痛い思いをして、結果治らないのは嫌だ…と考えて他の方法を模索した。
次に試みたのは鍼灸だった！

鍼灸師は自信ありげな顔で「間違いなく治りますので安心して通って下さい」と告げた。
もうダメのか？と思っていた私には神様の言葉のようだった。

私は鍼灸師の言うがまま週に二回のペースで一年間通った！一回の治療料が四千元なので1ヶ月で約四万円…一年間で五十万円の治療費を払った事になる。それでも足が元通りになれば決して高いとは思わなかっただろうが、一年間治療に通っても良くなるどころか逆に悪くなった様に感じられた。

今まで不安はあったが一言も疑問を投げかけずに通院していた私だがとうとう我慢できなくなって「もう丁度一年になるんですが全然変わりませんが大丈夫なんですか？」と訊いてみた！

すると鍼灸師は悪びれもせず「う～ん…結構頑固な症状ですね！でも諦める事はありませんよ～！あと三年から五年通えば治らない事もないと思いますので！」と言い放った！

私は呆気に取られて二の句が告げなかった。
後五年通えば治らない事もない…って？「約束が違うだろ！一体いくらつぎ込ませれば気が済むんだ…三百万円を越えるじゃないか！」と怒鳴りたい気持ちでイッパイだったが気の弱い性格なので何も言わずに帰路についた。
しかし、その時の私の気持ちは怒りより「(鍼灸でダメならばもうダメなのかも知れない)」という落胆の気持ちの方が強かった。

ちょうどそんな時、[気功の無料体験の新聞の折り込み広告が入った！](#)

②気功無料体験会

健康ならば見もせずゴミとして捨てたであろう折り込み広告だった！

また、その広告で治療をする事になっている人が大滝先生でなかったら無料であっても気

功治療を受けてみようとは思わなかったと断言できるほど、私は気功などというものを信じていなかった！

この時に大滝先生ならばと考えた理由は、大滝先生が全国的に有名な先生だからという訳ではなかった！

大滝先生の住まいが私の家からわずか 20 メートルしか離れていない場所にあり、私の息子が大滝先生の娘と同級生というのも大滝先生の気功治療を受けてみようと思った大きな理由の一つであった。

気功治療が始まった。

意外だったのは大滝先生が治療をしてくれるものだと思っていたのに、大滝先生の弟子だという数人の男性が入れ代わり立ち代わり治療をした事だった！

その中の一人の弟子 A さんが治療を始めて約 1 分…

A「先生大変です！まるでマネキン人形に気を当てているみたいで全く気が返って来ません」と大滝先生にうったえかけた。

その言葉に私もギョッとさせられたが、大滝先生も「え〜っ？マネキン人形？そんなバカな…」と言いながら少し薄笑いを浮かべて私の足の甲に手をかざした。

手をかざして数秒…「あらっ！本当だ！頑張っってやってあげて」と先生は弟子の A に指示した。

20 分も経ったろうか…A が「先生！気が返り始めました♪」と告げると再び先生が私の足の甲に手をかざして微笑みながら「でかした！」と叫んだ。

私としては特に変化を感じていなかったなのでそのやり取りを聞いてもただキョトンとしていただけだった！

私の気功体験の第一日目はそれだけだった！

気功の無料体験がその 1 日だけだったならば私は気功というものにそれ以上深く踏み込む事はなかったであろう。

次の土曜日に二回目の無料体験会が実施された。

気功を受けて一週間…針治療を一年受けた時よりも感触が良かったのも二回目の気功を受けてみようと思った理由だった！

治療が開始されてすぐに弟子Aが「気の通りが良くなっています。変化を感じていませんか？」と訊いてきたので、正直に「感触があるのは確かだけれどほんの少しだけです」と答えると横で見ていた大滝先生が「一年もの間、お金と時間をかけて全然効果が無かったのがたった一回で感触があったならばスゴイと今のところは思っています。ドラマは始まったばかりですから…」と声をかけた。

その言葉をきいて半ば愛想笑いを浮かべてうなづきながら治療を続けてもらいながら、この一週間ずっと頭から離れない質問を思い浮かべていた。

その質問とは、**弟子の皆さんはどうやってこんな気功治療ができるようになったのか？**という質問だった！

しばらくして私の限界が訪れた！

一見して彼等は気功治療などという不思議な事をできる人間にはどうしても思えなかった。それほど普通人に見えるのである。この人たちにできるならば私にできないものか？…そう考えるとどうしても知りたくて我慢ができなくなってしまったのだ。

私は弟子たちに「みんなどうやって気功治療ができるようになったの？」と問いかけた。

その問いに弟子たちは、キョトン顔になり互いに顔を見合わせると口をそろえて「えっ？先生の講習会に通ってくれば簡単にできるようになりますよ！」と答えた。

「という事は私でもできるようになるっていう事？」

「もちろんです！」

その答えは、とても意外な答えだった。薬も機械も使わずに手をかざすだけで身体の不調を治してしまう超能力とも言えるこの能力は、元々生まれ持った才能があり、その才能に気付いた人間が山などで何年も修行を重ねて気功治療ができるようになる…そんなイメージを持っていた！

しかし彼等は、気功伝承の講習会に参加しさえすれば誰でも気功治療ができるようになるという！

私は驚きながらもワクワクする嬉しさを抑え切れなかった！

それは、興味深い新しいゲームソフトを手に入れた子供のような嬉しさだった！

③気功習得を決意

私は、喜び勇んで講習会の受講を申し出ました！

その時に大滝先生の表情がほんの少し変わったのを私は見逃しませんでした！

後に判明した事ですが、その時に先生は、「これまでに私はパーフェクトに気功伝承をしてきたけれど、もし安田さんが何万人のうちに一人の確率でちゃんと伝承できない人だったらどうしよう…自分の娘の同級生のお父さんをペテンにかけてお金を巻き上げるなんて何て酷い奴だ！だいたいたった四日間で気功治療なんかができる訳ないだろう～！騙される方も騙される方だけど、騙す方も酷いな」みたいな話になって生まれ育った土地に居られなくなってしまうんじゃないかと思ったそうだ！

でも実際は、大滝先生のそんな懸念もなんのその日本一ゆるい（楽な）講習で私は癌にも効果を上げる気功能力を習得したのである。

講習会は、1ヶ月に四日間、隔週の土日で行われる。

よって私はたった1ヶ月で気功師の仲間入りをしたのだった！

薬も機械も使わずに手をかざして病気や怪我や肩こりが治る！

最初信じていなかった私だが事実を突き付けられては信じるほかなかった！

④奇跡の気功で癌治療

自分の気功の能力を試す機会が訪れた。

気功を学んでわずか半年の時期だった。

平成10年12月25日、私の家内の弟が肺がんに侵されて入院していた病院の主治医から「残念ですがもう手の施しようがありません。使っている薬も何の効果も期待できませんが、急に止めると患者さんに気付かれますので使っていますが年は越せない」と覚悟して

おいて下さい。もし会わせたい方がいたら今のうちに会わせてあげてください」という言葉ももらった！

義弟は、もうすでに一週間も食べる事ができず体力も弱まり、まさしく主治医の言う通りに死に向かって突き進んでいる状況であった。

私は、その年の5月に会社を定年退職して時間の余裕があったので頻繁に義弟を見舞っていた。

ガンの治療など全く自信が無かったが大滝先生に相談すると是非やるべきだという後押しをもらったので即日気功治療を始めた。

時間の長さが効果に反映すると言われたので五時間以上試みた！

奇跡はすぐにやって来た！

治療を始めて三日目に義弟は少しずつ食べ物を口に始めるとドンドン食が太くなり同時に寝たきりの状態から回復を思わせるほどの元気を取り戻した。

最初に気功治療を始めた時にはグッタリしていて何をしても抵抗はおろか反応もしていなかったのが、元気になるにつれて気功治療をする私に「さっきから手をパタパタさせて何をやってんだよ!？」と言って治療を阻害しようとした。

まあ、本人には気功治療の事は言っていないし、もし言ったところで「は～？お前が気功治療？ふざけるな！」みたいな話になるに違いないのである。

私は、義理の兄でありながら義弟にタメ口をきかれるほど、なめられる存在であった。それほど義弟にとって凡人の身内にすぎない私が、ガンに対して主治医以上の効果を上げてくれるという発想は浮かばないのがむしろ当然だと言えよう！

よく気功治療の際に「**信じなきや効かないよ**」という言葉を目にするが私の習得した気功は信じなきや効かないといったチンケなレベルのものではなかった事に感動を覚えずにはいられなかった！

義弟は、信じられない位に元気さを取り戻し一週間も経った頃には「病院の食事は不味くて食べたもんじゃない！外で何か美味しいものを買って来てくれ」といったワガママを言うまでになった!!

肺がんなので特に何を食べてはいけないという制約はない為「何が食べたい？」と聞くと「カツ丼」次は「牛丼」のような旺盛は食欲をみせた！

私としては、ここまで回復させたのは私の力だ…という自負はあったが、誰一人として評価してくれないのが不満でならなかった！

主治医は、主治医自身が効かないと断言している薬を投与して死ぬのを待っている状況であるのだから、主治医が回復させたという可能性は著しく低いと考える。私の気功のおかげとしか考えられないのに「みんなが入れ替わり立ち替わりお見舞いに来てくれたから元気が出た」とか「お医者さんのおかげ」という評価を下した。

主治医の予想は完全に外れて新年を迎えた。

ある日、私が病室を訪れると義弟が胸を押さえながら不快な顔をして迎えた！一瞬「病状が悪化したのかな？」と考えたが、よくよく聞いてみると、私が来る直前に焼き鳥十本とトンコツラーメンを食べたと言うので、それは私でも気持ち悪くなるよ…と言った。

そんな笑い話のようなエピソードがいくつも誕生して、自宅に泊まり掛けで帰れるようにもなった！

いくら病状が良くなっても義弟や周りの親戚は、良くなったのは医師のお陰だと判断して私の功績と考える人間は一人もいなかった。

しかし、私が数日、見舞いに行かれないと病状が悪化し、行くと具合が良くなる…それを何度も繰り返したのでさすがに義弟も薄々自分の理解を越えた何かが起こっていると感じ始め義姉に「あいつが来るとなんか調子がいいんだ」と言い出し始めた。しかし、それでも私の気功の力によって病状が好転するとは考えていなかった。

年は越せないと言われた末期の肺がん患者が何回も自宅に帰り美味しいものを堪能し、桜の開花を見ようとしている…この時点で奇跡という領域に到達していたと思う。

そんな時、主治医が代わった！引き継ぎができていなかったのか、それとも分かっていた故意なのか…信じられない事が起こってしまった！

義弟は、病状を知るのを恐れ主治医との面談はいつも義姉に頼んで、聞いた事も一切自分には知らせないでくれと厳命していた。しかし、代わった主治医が何の予告も無しに病室に現れ「貴方はもう手の施しようがなく余命幾ばくもないから今から覚悟してやるべき事をやっておいたほうがいい」と義弟に告げた。

その時以来、義弟は、「どうせ俺は死ぬんだからもう放っておいてくれ」と言い放って誰にも顔を合わせなくなった！

私はその話をして愕然とした。

大滝先生は、今こそ気功治療の効果を説明して医師が今日死ぬと断言した状態から回復してガンが消えた事例がうちの気功治療である事を示して治療を続けるべきだ…と強く主張してくれたが、もう義弟は聞く耳を持てる状況ではなかった！

30年以上普通人として接してきた私が医師が見放した病気を治せるとは思えなかったのである。

その告知を受けてたった三日後に義弟は人生に終止符を打った。

大滝先生がよく講習会でキルケゴールという学者が著書「死に至る病」の中で述べている死に至る病とは、ガンの事でも脳卒中でもない、「死に至る病」とは絶望の事だと言っていたのを思い出した！

末期ガンをも消して命を助けた…その事実が、ガンを患った患者が共通して持っている「どうせ助からない」という絶望感から解放させられる「希望」という人類最強の武器となる事を身を持って体験させられた気がした。

人間は「希望」があればなんて強くなれるんだろう！

そして「絶望」するとなんて呆気なく死に至るのだろう。

このタイミングで義弟がガンになり治療して効果を上げて、主治医の心無い告知で命を消した！

今、私はこの出来事を偶然ではなく神が与えた必然だと考えるようになっている。

私はその後、多くの人を助ける使命を果たす事ができる人間になる為の神が与えた試練として義弟の死をしっかりと頭の奥深く記憶しておこうと心に誓った。